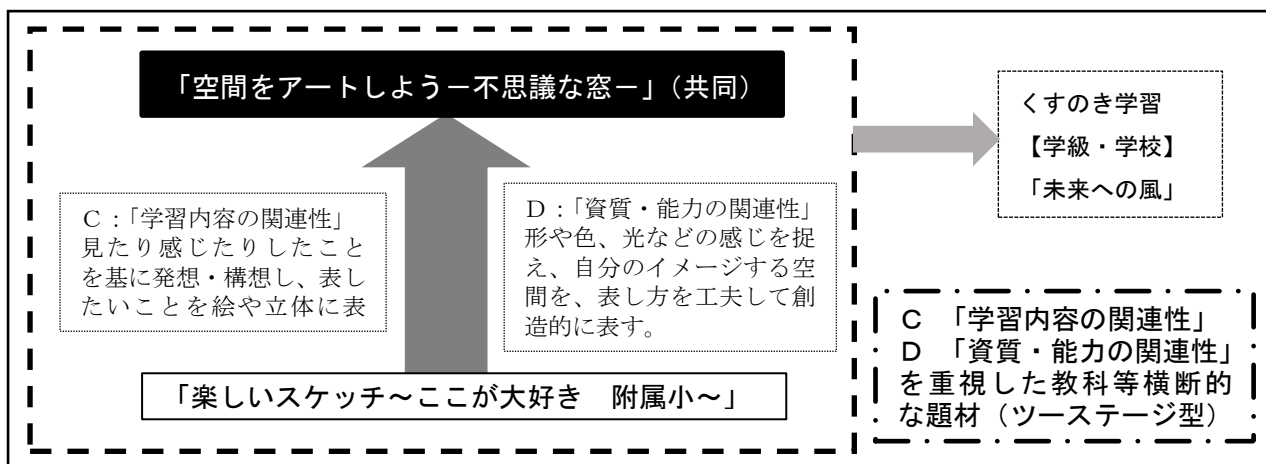


## 第5学年星組 図画工作科（＋くすのき学習【学級・学校】）

「空間をアートしようー不思議な窓ー」

指導者 藤野 由起子

### 1 題材全体構想図



### 2 題材構想について

本題材は、A「学習内容の関連性」及びB「資質・能力の関連性」を重視したツーステージ型（発展性を重視）の教科等横断的な題材である。

本学級の子どもは、造形活動に対する関心や好奇心が強く、支持的な学級風土の中で伸び伸びと自分の思いを色や形などで表現することができている。前題材「楽しいスケッチ～ここが大好き附属小～」では、自分のお気に入りの風景を基にイメージを広げ、クリアグラフの手法を用いて、自分だけの世界をつくりだす活動に取り組んだ。その中で、奥行きを意識的に表現することによって作りだされる空間の広がりや、色や形などの組み合わせや重なりによって生まれる非現実感の面白さを体験的に学ぶことができた。主材料の亚克力板は、子どもの造形的な好奇心や感性を刺激し、個々の見方・考え方を働かせながら、自分だけの世界をつくり続ける子どもの姿や、他者の作品と組み合わせるとその感じの違いを楽しむ姿が見られた。また、活動の途中で、亚克力板の透光性、亚克力絵の具の不透明性に気付き、光にかざしてみたり、出来た作品をライトアップして展示したりする子どもの姿も見られた。このような子どもの姿から、前題材を通して高められた資質・能力を、生かし発揮する場として、発展的な内容である本題材を構想した。

本題材は、129cm×160cm大の亚克力板を窓に見立て、その大きな窓の向こうに見える世界を、共同でつくる活動である。普段何気なく過ごしている校舎の廊下に、いつもはないはずの「窓」が突然現れる。その窓の向こうは、普段見慣れた風景のようで、そうではない、現実と非現実の世界を結ぶ不思議な窓。見上げる亚克力板の大きさ、透き通って見える世界、そこで感じる光や風は、子どものそうぞう性を更に刺激するであろう。最終的な作品設置場所として廊下を想定していることから、描画材は耐水性のものを使用する。前題材で使用した亚克力絵の具の他に、耐水性のペン（透明・不透明）を準備し、それぞれの特性を体験的に捉えながら、選択できるようにする。また、本題材は、「共同でつくりだす活動」として扱う。個々あるいは小集団としての造形活動と鑑賞活動が往還するような学習過程を設定し、子どもが能動的に他者の見方や考え方に触れ、自他の違いやよさに気付き、協働してよりよいもの、新しいものをつくりだそうとする態度の育成を目指す。

子どもたちは、三学期にくすのき学習【学級・学校】における「未来への風」のプロジェクトの一つとして、6年生を送る会の企画と運営を行う。環境に能動的にかかわりながら、色や形、光などに自分たちの思いを込めて空間をコーディネートしていく姿や、「共同でつくりだす活動」によって高められた「そうぞうする力」を子どもたちが汎用的に発揮していく姿を、継続的に見取っていききたい。

### 3 題材のねらい

- 形や色の組み合わせ、光などによる空間の変化とそのよさがわかるとともに、多様な描画材の特性を理解し、表したい感じに合わせて表し方を工夫することができる。
- 身近な風景を見たり、感じたりしたことから表したいことを見付け、どのように形や色、表し方を生かして表現するかを考えることができるとともに、自他の表現の造形的なよさや面白さについて、感じ取ったり考えたりすることができる。
- 形や色、光などによって変容する空間の感じを楽しみ、自分のイメージのよりよい表現に向けて試行錯誤し、粘り強く取り組むことができる。

### 4 題材の指導計画（全7時間）

場面	子どもの課題意識と主な学習活動	評価の規準	時間
出合い	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">窓の向こうをのぞいてみよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作品を鑑賞したり、材料とかかわったりしながら、自分たちの窓のイメージを話し合い、主題を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 対象を造形的な視点で捉え、感じたことや考えたことを基に話し合い、主題を設定しようとしている。</li> </ul>	1
追究	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">窓の向こうの不思議な世界をつくりだそう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分たちの表したいイメージや考えについてより深く話し合いながら、形や色、表し方などを工夫して表す。 ↓↑</li> <li>○ 他者の行為や表現から異同やよさを感じ取り、自分たちの表現に生かしたり、仮設置して見え方を確かめたりしながら、発展的に表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境や材料に働き掛けながら、自分たちのイメージをどのように表すか、話し合い、見方や考え方を深めている。</li> <li>● これまでの経験や技能を総合的に生かし、表現に適した方法を組み合わせながら、表し方を工夫して表している。</li> </ul>	5 本時 その4
振り返り	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">不思議な窓を飾ろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作品を展示し、作品を含む周辺環境の変化の有り様や、表現意図、表し方のよさなどを感じ取ったり、考えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自他の表現のよさや工夫を見付けたり、窓のある空間の変化を造形的な視点で感じ取ったりしている。</li> </ul>	1

### 5 題材における指導の工夫

場面	三つの場面ごとの子どもと「つなぐ」指導の工夫（学習材・他者・自分自身）
出合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学生の制作した作品を鑑賞することを通して、作品と周辺環境が一体となることによる空間の変化やその面白さを感じ取り、学習活動への関心を高めるとともに、見通しを持つことができるようにする。（学）</li> </ul>
追究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ編成や環境構成を工夫するとともに、グループ内の対話の視点を焦点化したり、視点の拡大・転換を図る指導言を工夫したりして他者とのかかわりをコーディネートし、子どもが個々の見方や感じ方、考え方の違いやよさに気づき、他者との協働によりそれらを一層高めていくことができるようにする。（他）</li> <li>・ 安全に配慮しながら、窓を仮設置する機会を持ち、つくり、確かめ、思い付き、更につくるという行為が継続して展開されるようにする。（学）</li> <li>・ ICTを活用して記録した子どもの行為や表現の変容、図工日記から見取った子どもの思いや学びなどを、全体場で共有する機会を適宜持つことにより、活動を振り返りながらよりよく活動を進めようとする意欲を高める。（自・他）</li> </ul>
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の過程を振り返ることによって鑑賞の視点を明確にし、相互鑑賞の質を高めることができるようにする。（自・他）</li> <li>・ 教室外での作品展示とすることで、鑑賞の時間や空間を広げ、多様な他者からの評価を受けられるようにし、環境に働き掛け、生活を豊かにする喜びを味わえるようにする。（自）</li> </ul>

## 6 評価の具体的な方法

### (1) 指導者評価

子どもの発言、様態、成果物（作品）、図工日記などから三つの観点の達成状況を見取る。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
出 合 い	○ 形や色などの組み合わせや環境とのかかわりが作り出す感じやその効果を感じ取っている。	○ 見たことや感じたことから表したいことを見付け、どのように表すかを考えたり話し合ったりしながら構想している。	○ 感じたことや考えたことを他者と積極的に話し合い、自分の見方や考え方を広げたり深めたりしようとしている。
追 究	○ これまでの形や色などの操作に関する経験や技能を、表したいことに合わせて活用したり、新たな表し方を見付けたりしている。	○ 形や色、光などの感じや効果、環境とのかかわりを考えながら、よりよい表し方を考えたり話し合ったりし、工夫して表している。	○ 他者と協働しながら新たな世界、価値をつくりだすことの楽しさを味わうとともに、納得できるまで試行錯誤して粘り強く表そうとしている。
振 り 返 り	○ 自他の表現を比較しながら見たり他者からの評価を基に自分たちの表現を見直したりしながら、造形的なよさや表現の工夫を見付けている。	○ 自他の作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や表し方の工夫などを感じ取ったり考えたりし、見方や考え方を深めている。	○ 自他の作品を鑑賞し、身のまわりの形や色、環境などに働き掛けて生活をより豊かにする楽しさや喜びを感じている。

### (2) 子どもの自己評価と相互評価

#### ア 自己評価

図工日記は、活動のめあての達成度を数値として評価する自己評価と、記述による活動の振り返りを行う。数値として評価する項目は、上に示した三つの観点における評価の視点に準じたものと、次時の活動に対する期待度を測るものの、合計4項目を設定する。前者は活動を通して育成を図りたい資質・能力に関する子ども自身の達成感を見取り、後者は活動に対する満足感を見取る。それぞれの数値については、その根拠を子どもに問い返したり、記述による自己評価の言葉や授業における様態の見取りから分析したりすることにより、次時の指導に反映させる。記述の内容については、意図的に視点を限定したり、自由にしたりしながら、子どもの思いや願いを把握するとともに、子ども自身が振り返りの視点を主体的に選択して自己評価できる力を育成していく。

#### イ 相互評価

鑑賞カードは、相互鑑賞の際に、子どもが見取った他者の思いや表し方の工夫、自他の違いのよさなどを記述する。活動過程における中途鑑賞においては、感じたことや気付いたことを図工日記の自由記述欄に書くようにしたり、付箋に書いて相手に渡すようにしたりして、他者とのかかわりの中で生まれたこと・ものを蓄積していけるようにし、子どもの自己評価の材料となるようにする。また、子どもの記述を分析することにより、その時その子ども自身が活動の中で大切にしている視点を見付けたり、つまづいていることを見取ったりする手立てとし、次時の指導に反映させ、子どもの鑑賞活動と造形活動の往還を補助していく。作品として完成した際に行う振り返りとしての鑑賞においては、対話を中心とした鑑賞活動を行い、他者の行為や表現を、根拠を持って批評、評価することを通して、子ども一人一人が学びを深めていくことができるようにする。また、他者から得た評価と自己評価を比較しながら、多様な見方や感じ方の存在やその多様性の価値に気付くことができるようにする。

7 本時の授業（5／7）

(1) 日時 令和2年1月31日（金）10：30～11：15

(2) 場所 図画室

(3) ねらい

○ 表したい世界のイメージを更新しながら、どのように形や色、表し方を生かして表現するかを考えることができる。

○ 自他の表現の造形的なよさや面白さについて、感じ取ったり考えたりすることができる。

(4) 準備物 アクリル板、アクリル絵の具、油性マジック、ポスターカラーマーカー、付箋等

(5) 展開

学習活動	予想される子どもの意識の流れ	指導（○）と評価（●）
<p>1 前時の活動を振り返り、本時の目標を持つ。</p>	<p>どんな世界ができているのかな。</p> <p>・実際に窓をつけてみたら、すごくきれいで、楽しい廊下になってたよ。</p> <p>・○○さんたちが面白いことをしてたな。</p> <p>・早く続きがしたいな。</p>	<p>○ 前時の様子をモニターに映したり、図工日記を紹介したりして活動を振り返ることにより、活動のめあてを意識化するとともに、本時への意欲を高める。</p>
<p>2 新しく思い付いたことを試しながら、更に自分たちの世界を発展させる。</p> <p style="text-align: center;">↑ ↓</p>	<p>どんな風を表してみようかな。</p> <p>・後ろに見えた校舎を使って、何かできそうな気がするな。もう一度、見に行ってみよう。</p> <p>・○○くんたちの窓となんだかつながりそうだよ。並べて展示したら面白いかも。相談してみよう。</p> <p>・鳥が向こうに吸い込まれる感じにしたいな。</p> <p>・透明な感じを残したいから色じゃなくてニードルの線で表してみたらどうだろう。</p>	<p>○ 安全に配慮しながら、活動場所の自由度を保障することにより、伸び伸びと活動できる環境をつくる。</p> <p>○ 描画材置き場を教室中央に設置し、自然に他者の活動が目に入るようにする。</p> <p>○ 子どもの行為や表現のよさを見取り、称揚することによって子どもの活動を促進するとともに、ICTを活用して活動の記録を蓄積していく。</p>
<p>3 自分たちの表現のよさを紹介したり、他者の表現のよさを見付けたりする。</p>	<p>友だちの表し方のいいところを生かしてやってみよう。</p> <p>・○○さんのところの色がきれい。グラデーションを使っているからかな。</p> <p>・マスキングテープを使ってみたらまっすぐな線ができそうだな。</p> <p>・あの鳥、こっちの世界にも連れてきたいな。</p>	<p>● 自他の表現の造形的なよさや面白さについて、感じ取ったり考えたりしながら、よりよい工夫を考えているか。</p> <p style="text-align: right;">[様態・作品・図工日記]</p>
<p>4 活動を振り返り、気付いたことや考えたことを他者と共有する。</p>	<p>今日はどんなことができたかな。</p> <p>・形の大きさを変えてどんどん増やしていくと、遠くに飛ばたいいく感じがでたよ。</p> <p>・友だちと話していると新しいアイデアがたくさん出てきて楽しかった。</p> <p>・次の時間が楽しみ。早く続きがしたいな。</p>	<p>○ 本時の活動の中で変容した表現をモニターに映しながら、図工日記による振り返りをさせることで、自他の行為の成果を自覚できるようにする。</p>